

第5章

英文ライティング力UPのための 日英発想トレーニング

約1000時間英英辞典を使いこなせば、語感をかなり養うことができるようになります。最近では電子辞書が普及したおかげで、英英辞書を使う人が増えてきました。最初のうちは完全には使いこなせなくても、まずは英英辞書を引く癖をつけましょう。そして、どうもいまいちわかりにくいな、と思ったときは「ジャンプ機能」を利用して、英和辞典を引き、**英英辞書の定義と英和辞書の語釈を比較する**のは、すばらしい勉強法です。

次に文法については、本書の第4章の「ライティング力UPのための英文法トレーニング」で触れてありますので、気合いを入れてお読みください。例えば日本語の「接続詞」につられた“overgeneralization”の例として、「～なので、～だから」の文が挙げられます。「傘返すから貸してよ」を直訳した“Please lend me your umbrella because I will give it back to you.”という英文は変でしょう。これは英語で考えれば、becauseを使わず、文を切って“I promise I'll bring it back to you.”となります。それは借りたものは返すのが当たり前なので「から」が理由の意味になっていないのです。日本人はこういった言葉の論理性に鈍感で、「これは私が言っているから間違いないんだ」という傲慢な発言を聞いても、それほど違和感を感じない人がたくさんいますが、その直訳である“This is true because I am saying so.”は理由になっていないので変でしょう。英語の発想では“I am positive.”で済んでしまいます。こういったことを訓練によって鍛え、きちんと文脈に合った語彙を選び、文法も正確にかつ論理明快な文を書けるようにすることが、英文ライティング力UP上、非常に重要なことです。

さて、語彙・文法・発想の点から日本語と英語の言語文化の違いを、対照言語学・比較コミュニケーション学的見地から考察すると、次のようになります。

日英の発想【言語文化 (languaculture)】の違い20

1. 英語がS+V+Oのする、働きかける (action) 言語であるのに対して、日本語は (S) +V + (C) 的、状況描写的【ナル的】言語である。
2. 英語は「受動態 (the passive voice)」よりも「能動態 (the active

voice)」を用いる傾向が強いが、日本語は「受動態」を用いる傾向が強い。

3. 英語は「否定形 (negative forms)」よりも「肯定形 (affirmative forms)」を用いる比率が日本語よりも高い。
4. 英語は「関係代名詞 (relative pronoun)」や「分詞 (participle)」などで修飾していくために、1文が日本語よりも長くなることが多い。
5. 英語は原則として重要語句 (主語+動詞) を先に述べてからそれに修飾語句 (modifier) を加えていくが、日本語は修飾語句を先に述べる。
6. 英語は主体「主語 (subject)」と客体「述語 (predicate)」が明確であるが、日本語ではそういったアイデンティティーが不明瞭であることが多い。
7. 英語は「時」の概念 (tense)、動作の起こった時間関係が明確であるが、日本語はアバウトである。
8. 英語は未来のことを述べるときは「状態表現」を用いる傾向が強いが、日本語ではその発想はない。
9. 英語は名詞の可算性 (countability) を重視するが、日本語ではその考え方はない。
10. 英語は代名詞の「所有格 (possessive case)」が明確であるが、日本語では pronominal reference は省略的である。
11. 英語はスタイル・リズム・統一感を重視するが、日本語はそれらにこだわらない。

12. 英語は接続詞 (connective) の使い方が非常に「論理的」であるが、日本語では「潤滑油的役割」を果たす場合が多い。
13. 英語は日本語より多義語言語的 (polysemic) である。
14. 英語は日本語より文脈依存度が低い (low-context)。
15. 英語は基本原則として「論理性 (logic)」を追求しているが、日本語はそうとは限らない。
16. 英語はポイント (point) を非常に重視し、1段落に1ポイントを述べるのを原則としているが、日本語はそれに関して厳密ではない。
17. 英語は「証明 (illustration)」を重視し、ポイントを必ず各段落の中で証明しようとするが、日本語ではポイントを段落内で証明せずに別のポイントを述べることが多い。
18. 英語はポイントを general から specific に述べていくが、日本語はそれほど厳密ではない。
19. 英語は「比較の概念」に関して厳密であるが、日本語はそうではない場合が多い。
20. 英語は「誇り・名誉」を重視し、「謙遜、謙譲」を表す言い回しや前置きをほとんど使わないが、日本語ではそれらが多い。

1は何度も述べているように、「夜になると、ふくろうがやって来る」という状況描写的・ナル的和文の直訳は、“When night comes, owls come.”ですが、英語の発想では、“**Night brings owls.**”と「S+V+O」作用的に表現できます。また、「この問題には頭が痛い」といった状況描写的な日本語も、英語では“This problem gives me a headache.”の「S+V+O+ (O)」になります。